

転倒災害の再発防止のための自主点検結果について

平塚労働基準監督署

1 対象

平成29年に労働者死傷病報告で把握した休業見込み1ヶ月以上の転倒災害を発生させた35事業場

(発送:平成29年11月21日 提出期限:平成29年12月8日)

2 提出事業場数

28事業場(提出率80%)

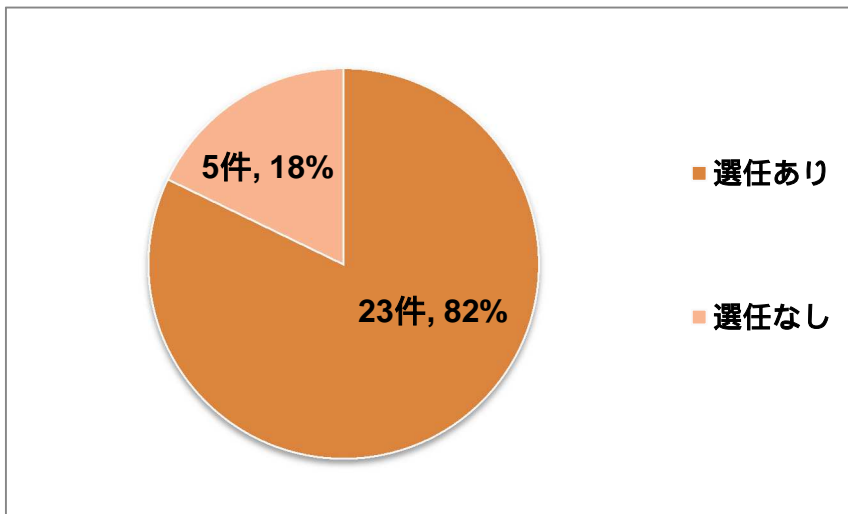
3 自主点検内容

別紙のとおり

4 自主点検結果

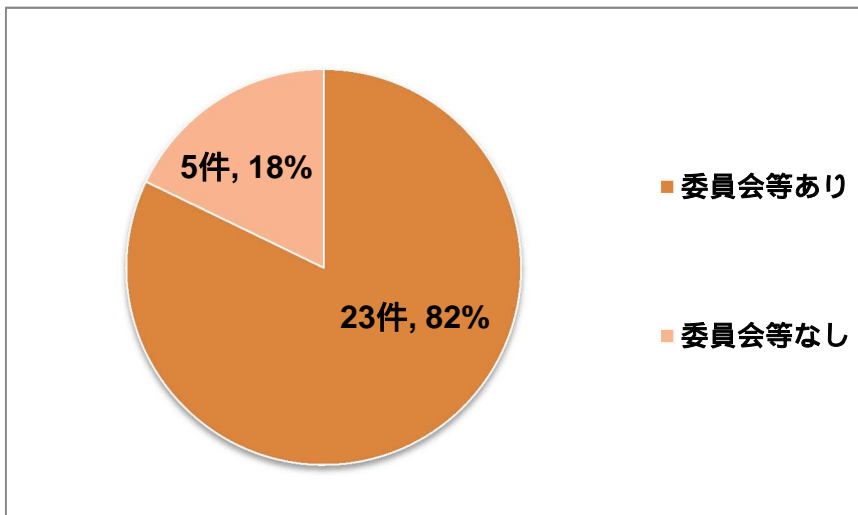
1 安全衛生管理体制

(1) 安全衛生担当者の選任



8割を越える事業場で安全衛生担当者を選任しているものの、転倒災害が発生している状況であり、当該担当者への転倒災害防止に係る知識の付与を適切に行い、当該担当者主導のもとで転倒災害防止活動の実施強化が望まれます。

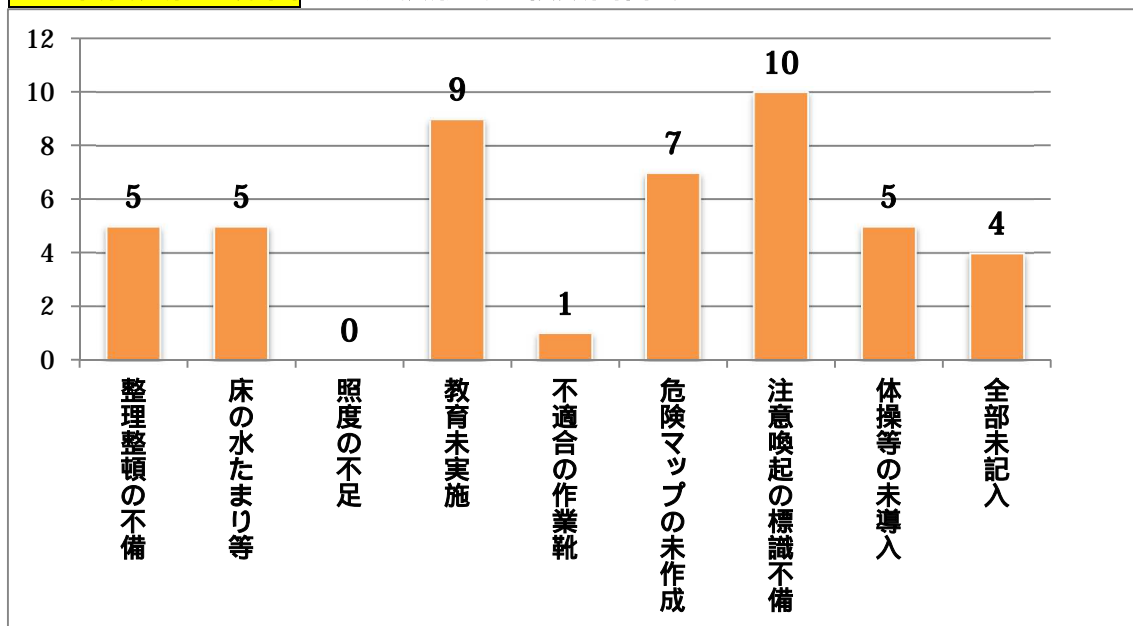
(2) 安全衛生委員会等の実施



安全衛生担当者と同様、8割を越える事業場で安全衛生委員会等を実施しているも

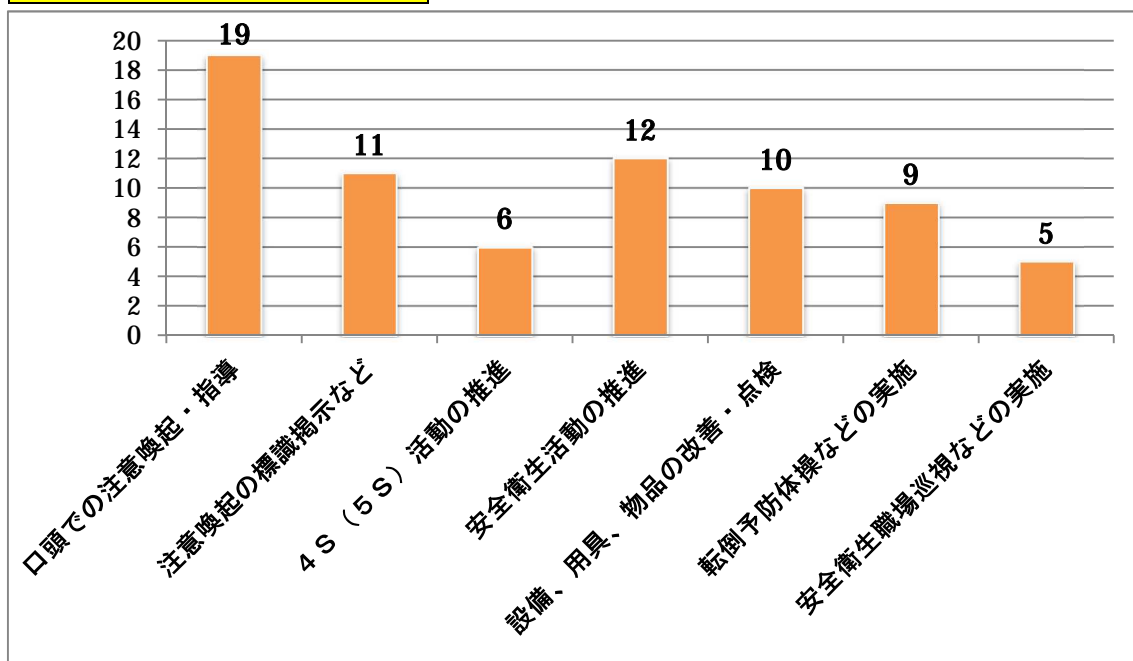
の、転倒災害が発生している状況であり、当該委員会等において、転倒災害防止に向けた具体的な取組事項を決定し、計画的に実施することが望めます。

2 転倒災害の原因 選択形式 複数回答可



「注意喚起の標識不備」が10件、「転倒災害予防のための教育未実施」が9件と高い災害発生原因として考えられているため、この2点については転倒災害防止対策として優先的に取り組むことが望めます。

3 転倒災害の再発防止対策 自由記入



転倒災害の再発防止対策として、「口頭での注意喚起・指導」が19件で、最も多くの事業場が対策実施事項に挙げています。

災害発生原因では、教育が十分に行われていなかった点が多く挙げられていたため、一時的な注意喚起で終わることなく、継続的に転倒予防を盛り込んだ安全衛生教育を実施することが望めます。

また、「設備、用具、物品の改善・点検」で可能な限り本質的な対策を講じ、設備改善などが困難な場合や、設備改善などを行っても転倒リスクが残存する場合には、「注意喚起の標識掲示など」（安全の見える化）を実施することが効果的です。

以下に転倒災害発生事業場が実施した対策事例を記載しますので、参考にし
て転倒災害防止活動を推進してください。

口頭での注意喚起・指導

- ・毎月のスタッフミーティングにて転倒災害の注意喚起を行った。
- ・天候不順時には必ず注意喚起を行うこととした。
- ・朝礼において定期的に転倒災害の注意喚起を行うこととした。
- ・出張先での予期せぬ段差や障害物に対し、細心の注意を払うよう指導した。

注意喚起の標識掲示など

- ・社内イントラを利用し、転倒災害の注意喚起を行った。
- ・「段差注意」のシールを作成し、危険箇所に掲示して注意喚起を行った。
- ・「災害防止のための遵守事項」を作成して配布した。

4 S (5 S) 活動の推進

- ・作業前に作業場所及び動線周りの整理整頓を行うよう指示した。

安全衛生活動（リスクアセスメントやKY活動など）の推進

- ・各職場の係長を安全リーダーに指名し、安全衛生活動の推進役とした。
- ・年4回、全員参加でヒヤリハット情報を提出し、職場環境改善などを図ることとした。また、当該情報を危険予知訓練のシートにして教育資料に活用する。

設備、用具、物品の改善・点検

- ・床に置き場表示を行い、商品等が通路へのはみ出さないようにした。
- ・工場内の暗い箇所に照明設備を設置した。
- ・靴底の摩耗状況を確認するためのチェックリストを作成して点検した。
- ・耐滑・耐油性の作業靴を購入して配布した。
- ・厚生労働省作成リーフレット「STOP！転倒災害プロジェクト」に記載されている「転倒災害防止のためのチェックシート」を活用し、転倒危険箇所の改善を図った。
- ・滑りやすい場所に滑り止めテープを設置した。
- ・段差部を黄色マーカーで表示し、色による注意喚起を行った。

転倒予防体操などの実施

- ・厚生労働省ホームページの「職場のあんぜんサイト」に掲載している「身体的能力のセルフチェック」を実施し、自身の転倒リスクを見える形にして注意喚起した。
- ・作業開始前に簡単なストレッチを行い、その後、作業者同士で身だしなみの確認を行うようにした。
- ・安全衛生委員会で神奈川労働局ホームページ掲載の「ころば NICE（ないっす）かながわ体操」を行い、今後職場単位で推進することとした。
- ・独自活動「ウォーキングキャンペーン」による健康増進を図り、転倒を予防している。

安全衛生職場巡視などの実施

- ・安全管理者のパトロール時に、床清掃状況や脚立・はしごの不具合の有無などを確認することとした。

転倒災害の再発防止のための自主点検等報告書			
			平成 年 月 日
平塚労働基準監督署長 あて			
		事業場名	
		業種	
		所在地	
平成29年に発生した転倒労働災害について、下記のとおり自主点検を実施しましたので報告します。			
1 転倒災害発生事業場の安全衛生管理体制について教えてください			
(1)以下の安全衛生担当者のうち選任しているもの全てに☑をつけてください。			
安全管理者 衛生管理者 安全衛生推進者 安全推進者 衛生推進者			
(2)以下のうち実施しているもの全てに☑をつけてください。			
安全委員会 衛生委員会 安全衛生委員会 その他(関係労働者の意見を聴くための機会を設けている)			
2 転倒災害が発生した原因として考えられるもの全てに☑をつけてください。☑をつけた項目については、改善措置を実施してください。			
No.	原因		
1	身の回りの整理・整頓を行っていなかった。通路、階段、出口に物を放置していた。		
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていなかった。		
3	安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていなかった。		
4	転倒を予防するための教育を行っていなかった。		
5	作業靴は、作業現場に合った耐滑性を有し、かつサイズのあったものを着用していなかった。		
6	ヒヤリハット情報を活用して転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していなかった。		
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていなかった。		
8	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていなかった。		
3 上記原因の項目の他に今回の転倒災害の原因として考えられるもの及び今回の転倒災害を契機として新たに取 り組むこととした対策を記入してください。			
例) 4S、KY活動、見える化などの安全活動を推進する旗振り役として、安全推進者を配置した。 毎月1回、職場の総点検を実施することとした。…など。			
記載しきれない場合、余白又は別紙に記載し、添付してください。			